



天満 仁
 県糖尿病専門医会代表

子どもや若者に発症することが多い1型糖尿病を知っているだろうか。

1型糖尿病の症状や定義、2型糖尿病との違いなどについて徳島県糖尿病専門医会代表の天満仁医師(51)に聞いた。

「1型糖尿病とはどのような病気なのでしょうか。」

「2型糖尿病が遺伝や生活習慣によりインスリンの働きが悪くなったり出にくくなったりするのに対して、1型糖尿病はインスリンを生産する膵臓の細胞(β細胞)が壊されてしまいインスリンがほとんど出なくなってしまう病気です。」

日本人の場合、90%以上が2型糖尿病、1型糖尿病の患者は5%以下で、1型糖尿病の患者は10~14万人いると推定されています。発症年齢は若者に多いですが、中年でも発症することはあります。

インスリンの補充が必要不可欠で基本的には毎

1型糖尿病

発症 子や若者に多く

1型糖尿病と2型糖尿病の特徴

| | 1型糖尿病 | 2型糖尿病 |
|-------|---------------------|----------------------------------|
| 患者の割合 | 5%以下 | 90%以上 |
| 家族歴 | 家系内の糖尿病は少ない | 家系内にしばしば糖尿病がある |
| 発症年齢 | 小児~思春期に多い。中年でも認められる | 40歳以上に多い。若年発症も増加している |
| 肥満度 | 肥満とは関係がない | 肥満または肥満の既往が多い |
| 治療方法 | インスリンの補充が不可欠 | 食事療法と運動療法が基本。飲み薬やインスリン注射も併用する場合も |

日数回のインスリン注射、もしくはインスリンポンプと呼ばれる医療機器によるインスリンの持続した皮下注入が必要で、インスリン製剤やインスリン注入器、血糖測定器は年々確実に進歩し治療に貢献しています。

「1型糖尿病の原因は何ですか。」
 原因はまだはっきり分かっていますが、自己免疫が関与していると言われています。ウイルス感染等がきっかけとなり自分の体のリンパ球が誤って自身の膵臓のβ細胞

を破壊してしまい発症します。
 生活習慣病でも、先天性の病気でもありませんし、遺伝して同じ家系の中何人も発症することもあります。自己免疫の病気で感染症ではありませんので人にうつることはありません。

「1型糖尿病の種類はありますか。」
 発症様式により3種類に分類されています。発症後数カ月以内にインスリン不足に至る「急性発症1型糖尿病」、数年を経て徐々に悪化するため2型糖尿病と間違われやすい「緩徐進行1型糖尿病」、突然発症し数日以内にインスリン欠乏になる「劇症1型糖尿病」です。劇症1型糖尿病の患者さんは急激に高血糖と

なり意識不明の状態が救急車で運ばれることも多く、早急な診断と適切な治療を受けないと死に至ることもあります。

「1型糖尿病をめぐる環境で、問題点は何ですか。」

医療費の補助は20歳までと限られており、生涯インスリン製剤や機械の購入が必要な患者さんの大きな経済的負担となっています。

また1型糖尿病は若年で突然発症するため精神的な受け入れが難しい病気です。

誤った知識による偏見のため就職や結婚で差別を受けた人もいます。そのため周囲に自分が1型糖尿病であることを言いたくない、または伝えるタイミングや方法が分からない等でストレスを感じ、治療に支障をきたしている患者さんも多くいます。

しかし先にお話したように、1型糖尿病に遺伝性はほとんどなく、また適切なインスリン補充さえ行っていればできないことは何もありません。

1型糖尿病の患者さんの中には、イギリスのメイ前首相をはじめ、医師やスポーツ選手など各界で活躍する人がたくさんいます。

1型糖尿病への正しい知識を持ち、社会が連携して患者さんや家族へのケアを行うことが大切です。(聞き手 三浦麻衣)